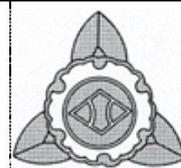


小須戸小学校だより

NO. 2

令和3年6月2日(水) 発行



『自主』『協働』『創造』を育む教育活動

校長 中林 浩子

学校たより1号では、学校経営の基本理念をお伝えしました。2号では、当校の目指す教育について述べてみたいと思います。

昨年度以来、全ての学校がそうであるように、当校でも、コロナ禍における学校教育の在り方を模索し続けてきました。そして、それは現在も続いています。

Withコロナにより、ICT活用は、急激に加速しました。現在、小須戸小学校に学ぶ子どもたちが大人になったとき、ICTが生活の一部となり、ICTをあたりまえに活用する社会を生きることになるでしょう。それは、ICTに使われるのではなく、自分が必要とするものを自分で創り出していくという創造的思考力が求められる社会を生きingことを意味しています。そんな未来を、子どもたちには、たくましく、しなやかに堂々と生きてほしい。人や社会のために力を尽くせる大人に育ててほしい。そのために、小須戸小学校で育てる3つの力を掲げました。

- 【自立】 自分で考え、よりよい方法を選択し、行動できる子ども
- 【協働】 協働して目標を達成したり課題を解決したりできる子ども
- 【創造】 創意工夫しながら他者や地域のために貢献できる子ども

この実現に向けて、取り組むことは大きく3つです。

1つ目は、授業を変えます。子どもが、何のために学ぶのかを理解し、自分の一番の学びやすい方法を選択し、自分の学びを自分で舵取りできる授業の実現を目指します。これは、『これまで、私たち大人世代が経験してきた『学校教育の概念』を打ち破り、「先生が主体の授業」から「子どもが主体の学習」へと発想を転換することです。こういった教師の意識改革と同時に、子どもたち自身も「先生から教えてもらう」という受け身な姿勢から、学ぶ意味を考え、自分で調べたり、確かめたり、工夫したりなど、学習に主体的にかかわる学習者へと意識を転換していくことも必要です。

例えば、「先生、自分は、こうしたらもっと学びやすいので、こっちのやり方でやらせてください。」と子どもが安心して言えるように、そして、そういう子どもの発言を喜べる教師、学校を目指します。

2つ目は、生活指導に力を入れます。これまでの生活指導は、問題やトラブルが起こってから指導する事後指導に因りがちでした。これを予防的な生活指導に転換します。具体的には、子どもにそれぞれの場面や状況に応じて、望ましい行動を具体的に教え、認め、強化していきます。また、望ましい行動を「尊重」「責任」「安全」の3つの行動の価値基準に照らして考え、望ましい行動を自ら選択できるように問いかけ、促します。これは、子どもが自らの学校生活をよりよいものにしていくことに教員だけでなく、用務員、事務員、支援員、司書、地域Coなど小須戸小学校で働く大人全員がかかわり、支援していく取組です。そして、教職員も子どもと同じように取り組みます。

3つめは、「食育の推進」と「防災教育」に力を入れます。各教科の授業を通しての学びと学校生活で培ってきた対人関係の力を統合し、育てる3つの力、「自立・協働・創造」を実践的に鍛える機会として、小須戸中学校と連携した「食育の推進」と「防災教育」に取り組みます。

子どもたちが地域の方々との交流や地域に出かけての活動などの際には、是非、ご協力くださいますよう、お願いいたします。

それぞれの具体的な取組については、学校からのたよりやHPなどで随時お伝えしていきます。